

## 平成 28 年 教育 10 大ニュースについて

### ○熊本地震・鳥取県中部地震への支援

平成 28 年熊本地震、鳥取県中部地震の発生を受け、震災・学校支援チーム（EARTH）を派遣。避難所運営や児童生徒の心のケアの支援等にあたるとともに、3 月に改訂した EARTH ハンドブック等の資料を提供。また、県立学校の児童生徒による街頭募金活動や被災地支援活動を実施。

### ○兵庫県立美術館入館者 1,000 万人達成

特別展「生誕 130 年記念 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画—」開催期間中の 7 月 20 日に、平成 14 年 4 月開館以来の入館者数 1,000 万人を達成。「来館者 1,000 万人達成記念」として、セレモニーやシリーズで館長と著名人との対談を開催し「芸術の館」としての魅力を広く発信。

### ○18 歳選挙権導入、高校生の政治的教養を高める教育を充実

公職選挙法の改正により選挙権年齢が 18 歳以上に引下げられたことを踏まえ、政治や選挙等に関する指導事例集「参画と協働が拓く 兵庫の未来」を作成。県立学校に配付するとともに、全ての教員が高校生の政治的教養を高める指導ができるよう実践研修を実施。

### ○「ふるさとひょうご寄附金」に新規募集事業を創設

ふるさと兵庫を応援したい、ふるさと兵庫に貢献したいという方からの寄附金である「ふるさとひょうご寄附金」に「県立学校環境充実応援プロジェクト」「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を新たに創設。県立学校の特色ある教育活動や教育環境の充実、コウノトリの野生復帰や保護・増殖に向けた取組を一層推進。

### ○リオデジャネイロ五輪において兵庫県ゆかりの選手が活躍

リオデジャネイロ五輪では、23 名の兵庫県ゆかりの選手が出場。水泳シンクロナイズドスイミングに出場した乾友紀子選手、中村麻衣選手、林愛子選手が銅メダルを獲得したほか、9 名の選手が 8 位以内の入賞を果たし、2020 年東京五輪でのさらなる飛躍を期待。

### ○市町へのスクールソーシャルワーカー配置補助制度を創設

中学校区へのスクールソーシャルワーカー配置を促進。学校と関係機関とのネットワーク及び学校内におけるチーム体制の構築や保護者への支援、課題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ等を行い、学校が抱える複雑化・多様化する課題の早期解決をめざす。

### ○外国人児童生徒のための学習支援と学習機会の充実

日本語能力が十分でないため、学ぶ意欲があるにもかかわらず進学が困難な外国人生徒の入学者選抜方法や指導方法を研究開発する「外国人生徒のための高等学校特別入学モデル校事業」や、外国人児童生徒への日本語指導を推進し、生活言語・学習言語の習得と基礎学力の定着を図る「日本語指導支援推進校事業」を実施。

### ○特別支援学校技能検定の活用によるキャリア教育・就労支援の推進

県立特別支援学校高等部の生徒が身につけた就労に関する力を公的に認定する技能検定の本格実施に向けたプレ検定を 8 月に実施し、「喫茶サービス部門」「ビルクリーニング部門」に生徒が挑戦。将来の自立と社会参加を図るためのキャリア教育・就労支援の取組進む。

### ○「合理的配慮」提供の義務化に対応したインクルーシブ教育システム構築の推進

障害者差別解消法の施行に伴う「合理的配慮」提供の義務化に対応して、3 月に県立学校教職員向け対応要領を策定。4 月にはリーフレット「学校で『合理的配慮』の提供が義務となります」を県内すべての公立幼稚園、小・中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に配付。研修等で活用され「合理的配慮」の提供について理解啓発進む。

### ○文化財を活用した地域振興の推進

淡路市・洲本市・南あわじ市の 3 市で共同提案した「『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」が、昨年の篠山市に続いて「日本遺産」に認定。引き続き兵庫県の旧五ヶ国からの「日本遺産」認定を目指すことで、歴史文化遺産を地域振興や観光振興に活用するとともに、ふるさと意識の醸成を図る。